

国際関係学部 国際関係学科

グローバル・スタディーズ専攻

GLOBAL
STUDIES





GS Global Studies Major
 Department of International Relations
 College of International Relations | Ritsumeikan University
 立命館大学 国際関係学部 国際関係学科 グローバル・スタディーズ専攻

2011年にスタートした「国際関係学」を英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。
 1学年100名のうち日本人と留学生の比率は50:50。
 約30カ国から集まる学生がオールイングリッシュで多様な文化の壁を越えて学び合う、
 京都にいながらもまるで留学しているような環境で4年間学ぶことができる専攻です。

192:209+
 日本人学生と留学生の学生数

世界中から集まる学生と学び合う

日本はもちろん、韓国、中国、アメリカ、インドネシア、インド、香港、台湾、フィリピン、イギリス、ブラジル、スイスなど約30カ国・地域の学生が正規生として在籍。更に交換留学などで立命館で短期間学んでいる多くの非正規生の留学生達もGS専攻の授業で学びます。

所属学生 国籍一覧
 アメリカ、イギリス、インド、インドネシア、エジプト、オーストラリア、韓国、シンガポール、スイス、セルビア、タイ、台湾、中国、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ネパール、パキスタン、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ペルー、香港、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、リトアニア、ロシア

*2022年4月時点

KYOTO
 文化と歴史の街で学ぶ

ここでしか体験できない
 キャンパスライフを

京都の立地に魅力を感じ、様々な国・地域から留学生が集まります。JDP・SKPといった他プログラムで来日している留学生とも一緒に学べる環境があり、京都にいながらにして、国際色豊かな環境で大学生生活を過ごすことができます。

100%
 英語で開講されている授業の割合

日本に居ながら、
 国際的な学習環境を実現

英語で開講されている授業の割合が100%なのが、本専攻の大きな魅力です。また、国際関係学部全体で見ても、英語開講科目がおよそ35.5%を占めています。本専攻の学生は、英語開講科目に加えて、自分の志望や興味に合わせて日本語で開講されている授業を受講することもできます。

34
 外国人教員の人数

教員のバックグラウンドの多様さも
 魅力のひとつ

本専攻を含む国際関係学部所属する外国人教員の出身国は、アメリカ、イギリスなどの英語圏の国をはじめ、ハンガリー、モルドバ、マダガスカル、韓国、台湾など、じつにさまざま。また、専門分野もバラエティに富んでおり、そういった多様性の中で国際的な人材を育てたいと考えています。

4:6
 卒業生の日本人・外国籍の比率

さまざまな国籍や
 文化を持つ人の中で学ぶ

卒業生の日本人と外国籍の比率を見てみると、およそ4対6と、外国籍の卒業生が多いのも本専攻の特徴です。出身国もアジア地域が多いものの多岐にわたり、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニアと、ほぼ全大陸から学生が集まっていることがわかります。

Curriculum

1回生時はIntroductory Seminar I・II、General Education Courses分野の科目、Foundation Courses分野の科目の履修を進め、「国際関係学」を学ぶための基礎的な知識とスキルを学び、2回生から興味ある専門科目の学びを深めていきます。専門科目は大きく分けて以下の3分野の科目が開講されています。

GOVERNANCE and PEACE CLUSTER	DEVELOPMENT and SUSTAINABILITY CLUSTER	CULTURE and SOCIETY CLUSTER
		
Peace and Conflict Studies, Security Studies, International Human Rights, International Law, Global Political Economy, International Organizations	Global Environmental Issues, International Development Cooperation, International Finance, International Trade and Investment, North-South Relations, Social Development	Global Sociology, Media and Society, Cultural Awareness and Communication, Topics in Identity, Race and Ethnicity in the Modern World, International Migration

科目（一部）

- | | | | |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ Introductory Seminar ■ Theories of International Relations ■ Introduction to United Nations ■ Introduction to Peace Studies ■ Politics for Global Studies ■ Economics for Global Studies ■ Sociology for Global Studies | <ul style="list-style-type: none"> ■ Academic Skills (AS) ■ Kyoto and the Japanese Arts ■ Macroeconomics ■ Global Simulation Gaming (GSG) ■ Global Studies Seminar ■ Introduction to Area Studies ■ Development Studies | <ul style="list-style-type: none"> ■ Microeconomics ■ Advanced Seminar ■ Global Civil Society and Development ■ Advanced Topics in International Relations ■ Graduation Research ■ Introduction to Linguistics ■ Peace Studies Seminar | <ul style="list-style-type: none"> ■ Introduction to Gender Studies ■ Theories of International Relations ■ Macroeconomics ■ Comparative and Global Governance |
|---|--|---|--|

カリキュラムの特色 #01

地域研究

国際関係学部では理論だけでなく、世界各地の地域について学ぶことを重要視しています。2回生から地域研究科目の履修を進め、関心ある地域の歴史や文化などの学びを深めていきます。

地域研究の授業（一部）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ Japanese Politics ■ Japanese Society ■ Japanese Culture ■ Japanese Economy ■ Japan-United States Relations ■ Modern Japanese History ■ Introduction to Area Studies ■ Advanced Topics in Area Studies | <ul style="list-style-type: none"> ■ Special Lecture ■ United State Politics and Foreign Policy ■ Foreign Relations of Japan ■ Business Administration in Japan ■ Korean Studies ■ Contemporary China ■ Southeast Asian Studies |
|--|--|



カリキュラムの特色 #02

小集団教育

1回生～4回生まで小集団科目の履修を継続し、ディスカッションやプレゼンテーションなど、少人数クラスならではの学びを通じてアカデミック・スキルを修得し、卒業研究をまとめる力を段階的につけていきます。

2回生の終了時に、3回生から2年間所属するゼミ (Advanced Seminar) を選択します。3回生・4回生の2年間、指導教員から指導を受けながら自身の関心のあるテーマについて研究を進めていき、4回生の最終ゼミに卒業研究をまとめます。



Advanced Seminar

3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門とする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。すべての学生がゼミ (Advanced Seminar) に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタムペーパーを作成します。

Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。



VOICE

Sandeep Krishnan さん
GS専攻3回生
International Student from India



The rationale behind my decision to study IR is primarily based on my fascination with the complexities of contemporary civil society and how humans, as nation-states, interact with one another. Accordingly, in my quest for higher forms of intellectual prowess, I had stumbled upon the depth and scope that IR provided and had categorically solidified my position on the pursuit after the same.

VOICE

CHOI Junyoung さん
GS専攻4回生
International Student from South Korea



Most courses are not lecture-based—this is something I did not expect. As far as I know, lecture-based courses are very common in Asian universities, but at the College of International Relations, professors encourage students to participate in discussions and speak up actively in class. It took me quite a while to get used to it, but in the end, I found it helpful.

GSG Global Simulation Gaming

国際社会のアクターとして実際の国際課題を解決するシミュレーション・ゲーム

学生たちがアクター（国際社会を担う主体：国や国際機関など）に扮して実際に外交交渉を行う授業。学生達は徹底して自身のアクターを研究し、シミュレーションながらも実際の外交交渉をすることによって、多角的な視点から見た国際情勢の知識を養い、現実の国際社会への理解を深めます。

また、グループでのシミュレーション活動を通じてチームマネジメントや、各アクターの国益を背景に交渉することの難しさをなど、自然とコミュニケーション力や、自ら問題を発見する力、それらを解決する行動力を身に付けていきます。



オープンゼミナール

学内・学外に向けてゼミチームで研究成果を発表

国際関係学部の学びでは、国際社会で発生する諸問題を政治的、経済的、社会的、文化的要因といった多角的な視野で考察する力を養い、そこから様々なアプローチを模索します。「オープンゼミナール大会」はその多様な学びを体現し、社会に広く知ってもらうための場として2000年度に始まったプレゼンテーション大会です。大会当日は各ゼミに所属する学生が日々の研究の成果を、学生・教員だけでなく学外の方々に向けて発表します。2019年度より、より多くのゼミ・学生がゲストへの発表の機会を得ることができるよう、ポスタープレゼンテーション形式で実施しています。



カリキュラムの特色 #03

クロス履修制度

国際関係学部では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。学生は所属する専攻に関わらず、どちらの言語の科目を受講するか、自分で選択して自由に受講することができます。

VOICE

山品なさにえる さん (GS専攻4回生)

私は母語が日本語なので、英語ネイティブではない学生が英語開講のGS専攻の講義を受講して、留学生とディスカッションすることに緊張してしまう気持ちはよくわかります。また、逆に、留学生は全て日本語で行われるIR専攻の授業はハードルが高いと感じると思います。ですが、こうした制度はなかなか他の大学にはない貴重な機会ですので、ぜひ多くの人に挑戦してほしいと思います。



外国語教育(初修・日本語教育)

グローバル・スタディーズ専攻では英語を学ぶ科目は開講されていません。1回生時に英語で国際関係学を学んでいくためのスキルを身につける「Academic Skills I～III」を履修し、英語で研究を進めていくための読む・書く・プレゼンテーションする・ディスカッションする力を身につけていきます。

初修外国語は、「フランス語」「ドイツ語」「スペイン語」「中国語」「朝鮮語」「日本語」の中から1つの語種を入学時に選択し、1回生時に全員が履修します(留学生は「日本語」を必ず選択)。2回生以降も学修の継続を希望する学生は、中級・上級の語学科目も用意しています(〇〇語アドバンスト、副専攻(外国語コミュニケーションコース)、専門外国語科目など)。

海外留学

海外留学は任意ですが、グローバル・スタディーズ専攻の学生の1～3割の学生が半年～1年の長期留学に参加しています。立命館大学の留学制度は国際教育センター海外留学プログラムHPでこちらから確認してください。



www.ritsumeai.ac.jp/studyabroad/

詳しくは Web ページをご覧ください



Voices

グローバル・スタディーズ専攻の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？
教員の生の声をWebページで紹介しています。

RAJKAI, Zsombor Tibor 教授



グローバル化とは、多くの国の視点から語る、ということです。それには、まず自分の国を発見すること。自分の国のどこがユニークなのか、他の国との違いや共通点など、特徴を正しく理解してほしいです。そのうえで他の国について勉強する。グローバル人材となるために、英語で話せるだけでなく、「マインドの国際化」を本学部で身につけて欲しいです。

福海 さやか 准教授



GSに来てみたらいろんな人がいることに気付くでしょう。常識がそれほど常識ではなかったり、変わっていると思っていた自分の考え方が、意外と他の国や地域では普通なんだと気付いたりする。それで大学が楽しいと思えたり、さらに他の人からさまざまな影響を受けて学ぶことができたらいいと思います。

雨河 祐一郎 准教授



育ってほしいのは、国籍にとらわれず相手を「個人」として見られる人です。日本では、外国人を見るときに、その国の政治や経済といったフィルターを通して見てしまいがちです。実際には同じ国や地域でも、人柄や考え方の個人差が大きかったりします。当たり前のことですが、一人ひとり、みんな個性のある人間なんだということを忘れないようにしてほしいです。

SMITH, Nathaniel M. 准教授



国際関係学部には、学問分野を広く柔軟に捉え、多方面から考えるマインドを持つ教員が多いです。私も興味の幅が広いほうで、コミュニティとしての新宿歌舞伎町の変貌に関する研究をしています。教える側としても、学生の個性的な着眼点や興味を生かしてそれぞれのユニークな研究成果に導くことができたら、と思っています。

越智 萌 准教授



GSではグルーピングがそんなに強くないので、学生が国ごとで固まっていけないので、国籍や出身関係なく仲良くなれるし、話し合える環境があります。中には、両親の国籍が違い、自分のアイデンティティがどちらかどくに決まっていなくて、そういう学生は2つの国の視点から話ができるのを強みとして生かしている感じがします。

KOGA BROWES, Scott 准教授



GSには10年以上の歴史があります。私も、いかに教えるか、経験を積み重ねて来ました。その結果、英語で学ぶための学習支援と、5年、10年先の未来を見据えたプログラムを作り上げることができたと思っています。今後は学生たちがさらに自分の興味のある分野に集中できるようなカリキュラムを、と考えています。

安高 啓朗 教授



GSが開設して10年以上が経ち、卒業した学生が母国や出身校で「GSは良いよ!」と言ってきて、そこからまた次の志願者が来てくれるという、良い循環ができています。日本は相対的に学費が安い安全なので、学生はGSを一つのステップにして、次に大学院に進むときは海外の大学院へ行くケースも多い。つまり、GSで学べばその先の進路に繋がられる、という評価をされているのだと思います。

GS Major 10th ANNIVERSARY site

GS専攻10周年記念サイト



詳しい教員インタビューはこちら!
www.ritsumei.ac.jp/ir/gs-10th/



Careers

さまざまな分野でグローバルに活躍する卒業生

本専攻で身につけた高度なコミュニケーション能力や国際感覚を生かし、外務省や大使館をはじめ、外資系企業や国内の大手企業などに就職し、さまざまな分野で活躍する卒業生が数多くいます。また、本学を含む国内、海外の大学院へ進学し、専門分野の知識やスキルの向上を目指す学生もいます。

岩元 晴香 さん

メディア・メタル株式会社勤務
卒業：2017年度



大学時代は難民というテーマを深掘りし、学部の自主ゼミに参加、カナダ留学では現地の移民・難民支援NGOに参加し、シリア難民家族の生活支援に関わりました。帰国後にはシリア難民児童の生活・教育支援を行う学生団体を立ち上げ、さらに大学院でも自身が見つけたテーマについて学びを深めました。こうして培った情報整理能力を生かし、現在はドキュメンタリー専門の制作会社でディレクターを目指して研鑽を積んでいます。

野村 明日花 さん

楽天モバイル株式会社勤務
卒業：2018年9月



入学当初は理解が不十分で特に意見がなくても発言しなければならない、という場面にとっても苦戦しました。しかし、GSの学生は多様性を受け入れ、さまざまな意見を聞きたい人たちです。否定されることは一切ありませんでした。GSで培った「どんな場面でも意見を言う」力や「人の意見を否定しない」力は今の仕事にも活かされています。会議やエンジニアとのミーティングも英語で行っていますが、GSで身につけたビジネス英語も役に立っていると感じます。

Anna Madli PILL さん

エストニア大使館勤務
卒業：2018年9月



現在の仕事では、日本政府や地方自治体、エストニア外務省とよくコミュニケーションを取ります。エストニアから日本への高レベルの公式訪問も数多くサポートしてきました。日本に住むエストニア人やエストニアに移住したい日本人のサポートも行っています。GSでの財産は世界中の人に出会えたこと。「生涯の友」と言える人にもめぐりました。仲間との出会いにより、私はさまざまな問題に対して多様な視点があること、そしてそれを受け入れることを直接学ぶ機会を得ました。

Gilang Al Ghifari Lukman さん

政治・セキュリティリスクのコンサルティング会社勤務
卒業：2019年9月



GSGの授業でパレスチナのリーダー役を果たしたことが私の進路を決定づけました。準備としてパレスチナの歴史、社会、政治を調査する中で、オックスフォード出身の著名な歴史家、アヴィ・シュライム教授と出会い、イスラエル・パレスチナ問題に強い関心を持つようになった私は、最終的には中東研究の修士号を取るため、オックスフォード大学でアヴィ教授から直接指導を受けることにしました。現在はイスラエル・パレスチナ問題に関する学術・メディアプラットフォームである「ハイファ研究所」をインドネシアに設立。30を超えるセミナーでこのトピックに関する研究結果を発表しています。

主な就職先

- | | |
|-------------------------|--|
| 外務省専門職 | 双日(株) |
| (株)ボーダレス・ジャパン | 日産自動車(株) |
| (株)三菱UFJ銀行 | 日本マイクロソフト(株) |
| SAPジャパン(株) | アクセンチュア(株) |
| エミレーツ航空 | アマゾン・ジャパン |
| キャノン(株) | China Construction Bank |
| プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株) | Embassy of Estonia Tokyo (駐日エストニア共和国大使館) |
| ロバート・ウォルターズ・ジャパン(株) | Deloitte Tohmatsu Consulting |
| 楽天(株) | Bloomberg LP |
| 京セラ(株) | Uber Japan |
| 全日本空輸(株) | |

主な進学先

- University of Hawaii [アメリカ]
- University of Manchester [イギリス]
- Université Libre de Bruxelles (ULB) [ベルギー]
- University of Oxford [イギリス]
- University of Sydney
- Master of commerce [オーストラリア]
- The Chinese University of Hong Kong
- Master of Global Political Economics [香港]
- 立命館大学大学院 国際関係研究科
- 京都大学大学院
- アジア・アフリカ地域研究研究科

What is International Relations?

These are the keywords related to the academic discipline of, and research topics in, the area of international relations studies. The number of keywords and possible pairings among them is endless. Our faculty covers a wide range of expertise and are here as your support team as you assemble your course of study in the field of international relations.

